

2021 年度 2 学期終業式の校長メッセージ

公孫樹の葉の金色の輝き、そして楓や柿の鮮やかな紅葉に目の保養をしているうちに時は移ろい、1年で一番昼が短く夜が長いと言われる冬至が過ぎました。しかし実は、冬至より前に日の入りの時刻は最も早い極点を迎えており、明るい一陽来復への予兆が萌していたのです。

キリスト教会では、11月の最終日曜日から待降節が始まりました。待降節は、「到来」の意味を持つ「アドヴェントゥス」の訳語で、神の子キリストが私たちに救うために人となって来てくださったという「主の降誕」、即ちクリスマスを待つ期間のことです。コロナ禍の中で2回目のクリスマスを迎えるにあたって、去る9月に刊行された『回勅 兄弟の皆さん』に示された、教皇フランシスコからのメッセージに耳を傾けてみたいと思います。教皇フランシスコは、コロナ禍に就いて、「パンデミックが引き起こした痛み、不確実性、不安、自己の限界への気づきは、わたしたちのライフスタイル、関係性、社会の組織、そして何よりもわたしたちの存在の意味を、見つめ直すようにとの声を響かせています。(P36)」と述べ、今が社会や自己を直視して、自己省察する内省の時だと呼びかけていらっしゃいます。

クリスマスを前に、2学期を振り返りつつ自己を省察し、自分自身の歩みの方向性をしっかり見極めていきましょう。デルタ株の蔓延で対面とオンライン併用で始まった9月からの日々、主体的な学びを展開することができたでしょうか。授業は、視覚・聴覚を研ぎ澄まし、各時間のテーマに就いて頭をフルに活動させてブレインストーミングする正念場です。隙を見せると、「ポーっと生きて」いるのではない！と5歳の女の子に叱られます。授業前に洗い出した疑問点を、授業内でしっかり解決し、授業後に大局的な見地から次への展開に発展させるべく復習する。そして、記憶に留めるべき内容をピックアップして、頭のコンピューターに保存する。この作業をコンスタントに繰り返すことが不可欠です。現代は、ネット検索によって、情報・知識を容易く得られる環境にあります。自己の頭の中に蓄えた情報・知識を繋げることでしかオリジナリティ溢れる深い思考は生まれません。単語・漢字・計算等の緻密な積み重ねの基礎準備は単調でともしんどい作業ですが、来たるべき将来の大きな成果と飛翔を確信して、今は、辛抱強く踏ん張ってください。

さて、2学期の行事では、校内開催になってしまいましたが、2日間に亙る体育祭での皆さんのパワー全開の活躍が印象的でした。競技の種類も出場数も少なくなってしまう、申し訳ない思いでいっぱいでしたが、思いっきり走り、応援合戦で可憐かつダイナミックに踊る皆さんの姿を拝見できとても嬉しく思いました。そして結びで、合成動画で作成した、高3による「PX パックス・クリスティ」の人文字と宗教部部長さんのメッセージを視聴して、皆で心一つにアシジのフランシスコの平和の祈りを唱えることができましたことは、係の方々、高3をはじめ多くの皆様のお蔭であり、有難さに感無量でした。体育科の先生方、体育部の皆さん、本当にどうも有難うございました。

その後、中 3・高 2 の修学旅行が代替行事になり、折角楽しみになさっていた宿泊行事が実施できず、本当にごめんなさい。中 3 は「東北探究」と題し、地域について得た情報を表現する方法を学んだり、震災講話を拝聴して防災に就いて考えたりしてクラスの垣根を超えて交流する貴重な時を過ごしました。一方、高 2 は、「京都・奈良探究」を掲げ、360 度映像による名所見学の疑似体験をはじめ、オンラインでの伝統工芸の製作や伝統芸能の一端に触れる体験等を通して、学年の絆を深める機会を得たと聞きました。両学年共に、春休みにたとえ 1 泊でも、宿泊行事を実施できたらと、新型コロナウイルス感染症の状況を見据えつつ、計画中です。

ところで、今年度から取り入れた夏服の着心地はいかがでしたでしょうか。夏服の変更に關しては、ある卒業生のお父様から「制服の安易な変更、光塩、お前もか！」とお叱りを受けましたが、夏服のジャンパースカートの暑さに関しては、私が在学の頃（約 45 年前）からの懸案でした。汗が溜まった後に乾いたジャンパースカートの背面に塩が吹いていた友人、あせもの痒さとの闘い……。その後、生地やデザインを改良して少し涼しげになりましたが、昨今の温暖化による猛暑を考えると、変更は喫緊の課題でした。総務委員会メンバーの方々が中心になって何度も試着を重ね、新しい夏服が誕生しました。私たち教職員は、胸元のネクタイも暑いからなくそう！と提案しましたが、皆さんからは「伝統のネクタイは守りたい。今後の選択は後輩に委ねる」との意見で、ネクタイは継続着用となりました。皆さんのバランス感覚に脱帽！でした。今回の新夏服は、変えてはいけない本質を大切にしつつ、日々進化し続ける、光塩の不易流行スタイルの象徴です。新夏服の隠し味を 1 つお話します。皆さんは、新夏服のスカートの裾に校章のデザインが刺繍されていることに気付かれましたか。本当のお洒落は、見えないところぞ！とよく言われますが、まさに隠れたハイセンスです。間違っても、裾をチョッキンして校章を切断しないように、大切に扱ってください。制服には制服の、私服には私服の、それぞれの着こなしによる美しさがあります。日々の学院生活の中で、皆さんの審美眼が益々磨かれますよう、願っています。

そして、先月中旬には、新型コロナウイルス感染症の感染者数が落ち着きつつある中、縮小形式ながら、初等科・中高等科の児童・生徒そして保護者の皆様の交流の場として 2 年ぶりに親睦会を開催することが叶いました。光塩の親睦会は、学校創立から 2 年目の 1933(昭和 8) 年 11 月 3 日に第 1 回が開催され、人間で言えば米寿に当たる 88 年の永きに亙って続いてきた伝統ある行事です。親睦会の開催目的には、伝統の継承等、幾つかの柱がありますが、特筆すべきは、文字通りの「親睦」と皆さんの成長・活躍の場としての位置づけです。今年度は、校内開催でしたが、光塩に繋がりのある方々に思いを馳せつつ、担当部署を訪ねてくださった皆様をホスピタリティー溢れる態度でおもてなしする皆さんの活躍が際立っていました。クラス企画やゲームコーナー、初等科生・初等科保護者の方を対象とするスタンプラリー・質問コーナー、ミニバザーやサロンコンサート等盛りだくさんの新しい試みが

あり、また、ラッフルくじも新しいスタイルとなって、参加賞として可愛くて素敵なデザインのクリアファイルも製作されました。総務メンバーは勿論、各部署の皆さんが佳きプランニングと周到な準備のもと、協働して楽しい時空を演出された晴れの舞台上、笑顔弾ける心豊かなひとときを過ごすことができ、感謝の思いでいっぱいです。親睦会の収益の一部は、寄付金としてフィリピン・ミクロネシア・中米・南米・アフリカ等の「もう一人の友」への援助活動に、学園の設立母体であるメルセス会を通して活かされます。

また、親睦会後の「総合」の時間に、「親睦会・90周年特別企画 Women for Others ～変わる光塩 変わらない光塩～」と題して、光塩女子学院初・中・高等科の卒業生4人による講演会・座談会を開催致しました。「トビタテ！留学 JAPAN」のシニアマネージャーとして軸のあるライフストーリーを示してくださった56回生貴島様、日本とメキシコとの懸け橋としての体験を基に寄り道人生の豊かさを語ってくださった63回生長谷川様、光塩時代の体験から建築を志し女性建築士のロールモデルとして人生を楽しむ姿で励ましをくださった79回生森田様、全力投球の素晴らしさとキラキラの明るいエネルギーとアドバイスで会場を盛り上げてくださった82回生吉田様、それぞれの人生をダイナミックに彩る素敵なお話を伺え、光塩の過去を振り返り、「今・ここ」を生きるためのパワーを蓄え、未来への展望を拓くかけがえのないひとときとなりました。

「今・ここ」を生き抜くための底力を涵養するために不可欠な学びのスタイルが「探究」です。探究活動の一環として、今年度も昨年度に引き続き「思考の道場 TANUKI レポートコンテスト」を実施しました。今年の「お題」は、
☆「多様性を大切に社会を実現するために、私（私たち）にできることは？」でした。
考えの道筋として

① 学校目標「光と塩」のサブテーマ「塩 SALT」の「T:Tolerance 多様性一寛容」に着目して、現代社会や自身における解決すべき課題を提示する。

② 解決に向けての方針を論じる。

③ 解決策を具体的に示す。

という方向性をヒントとしました。

今年度の入賞者を発表します。

最優秀賞：

高3 Sさん 多様性を受容する寛容な社会を目指すプロセスに生じる新たな課題に着目し、俯瞰的な視点で社会の枠組みを修理に再修理を重ねることの必要性を喝破した発展性のある見事な論考。

高1 Uさん 「無意識の偏見」に着目し、先入観でなく、心の中着を広げ行動・観察・想像等を通して実際にその人を識ることの必要性を喝破。一人一人の変化によって社会の歯車が動くという希望の光を感じる卓論。

優秀賞：

高1 Aさん LGBTQを例に、現実問題として偏見や主観に捕らわれない認識をすることの大切さが丁寧に論じられていた。

中3 Kさん 多様性を脅かす差別の解決に向けての具体策の提示が多岐に亙って考察されていた。

佳作：

中2 Sさん 無意識の差別に就いて自己内対話を通じて自覚することの必要性が明快に述べられていた。

中2 Kさん 虐待を例に現代社会の課題の具体的な解決策が提示されていた。

中1 Sさん 多様性に就いて、具体例を挙げて行き届いた考察がなされていた。

以上の方々には、担任の先生から賞状と副賞の狸グッズを渡して戴きます。鋭い着眼点と深い思索に感銘し、レポートから沢山のエネルギーをもらいました。これからも、学びを机上の空論に終わらせることなく、自分や社会に直結する課題と繋げて探究活動を続け、脳味噌を活性化させてください。

探究のプロセスを通して、学びの本質に迫ることを切望しています。今、特に高めてほしいのは、1. 情報選択センス 2. 課題発見力 3. 抽象概念把握力の三つです。世の中に溢れる玉石混淆の情報を精査する力を磨くことで、検索力もアップします。また、「なんで？なんで？」と常に問い続け、眼前の現象や事態に潜む問題・課題を見つけようと努める姿勢も重要です。これは質問力に直結します。そして、映像に頼るだけでなく、言葉から具体的な事柄や事象をイメージしたり、逆に具体例から抽象的な言葉に置き換えて帰納的に捉えてみたりすることも大切です。そして、これら3つの力を飛躍的に伸長させる方法が、多読による読解力の肝要です。冬休みには、是非、紙の本で活字に接してください。イメージ喚起力が躍進するはずです。

90周年ミサの中で、森司教様は「過去には感謝、今を誠実に、そして、未来に向けては希望を」とおっしゃいました。一瞬一瞬を大切に、「今・ここ」を、未来を紡ぐための学びの場として活かしていきましょう。

クリスマス会での各学年や合唱部の天使の歌声、高3・高2の名演奏や素晴らしい歌唱、アンサンブル部の合奏、そして中3の渾身の発表や聖書研究会の素敵な動画から戴いたエネルギーで、クリスマス、そして年末年始を心豊かに過ごしてください。

特に、節目の時を迎える高3・中3の皆さんが、夢の実現に向けて、一人ひとりが神様から賜ったGIFT（天賦の才）を信じて勇往邁進の日々を過ごされますよう、たくさんお祈りしています。高2・高1・中2・中1の皆さんも、心躍る冬休みでありますように！

「すべてのいのちを守る」ことを心に留め、イエスのメッセージ「光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。」（ヨハネによる福音第12章36節）を励みに、2022年、輝かしい佳き年をお迎えください。

それでは、今日も1日、そして年末年始もファイト！です。 喝！